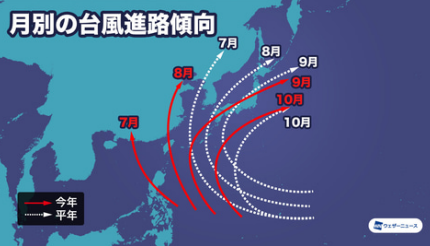


## 幸せな時代は終わった!?

ウェザーニューズ(6/9発表)は、2020年の台風は8月から増加し、9月をピークに接近と上陸が増えると予想しています。8月~10月は太平洋熱帯域でラニーニャ現象あるいはラニーニャ気味となる可能性があり、7月までは少なく8月以降は台風の発生が増え、シーズン全体として台風発生数は例年並みの26個前後になると予想しています。7月までは北西太平洋熱帯域の対流活動が平年よりも不活発になりやすいことから平年並みか少なく、大陸へ向かう進路を取りやすいとの予想。更に8月からは、太平洋高気圧の勢力が強い時期は沖縄~中国大陸へ、勢力が弱い時期は複雑な進路をとったり、動きが遅くなったりしながら日本付近に接近する可能性があるとしており、更に9月以降に偏西風が南下してくることで、台風が本州へ向かう進路が多くなると予想されています。



『今までの台風』とは大きく変化しています。2018年「平成30年台風第21号」は、25年ぶりに「非常に強い」勢力で日本に上陸し、近畿地方を中心に甚大な被害が出ました。そして、2019年には、9~10月に台風15号、19号「令和元年東日本台風」が相次いで関東を直撃し、これまでに経験したことのない形の風水害に見舞われました。

日経ビジネス(2019/11 配信)の中で片田敏孝東京大学大学院特任教授が『行政が災害リスクをゼロにして住民を守り、住民はそれを享受するという“幸せ”な時代は終わった!』と仰っています。その記事について是非ともお読み頂きたいとご紹介します。

日本を取り巻く気候がここ数年の間に大きく変わってしまいました。日本周辺の海水温が高くなり、台風がより日本の近くで発生するようになってきました。しかも、日本に近づいてからも水蒸気を補給され続け、勢力が衰えずに巨大で強力な台風として日本を襲うケースが増えてきました。こうした台風は迷走しやすく、台風が接近する前に降る事前降雨の量も増えています。かつては関東地方に台風が来る際は、主に九州、紀伊半島などを経ていましたが、今では、関東を直撃したり、勢力を保ったまま東北地方を通過しています。しとしと雨が降るといった印象が強かった東北や北海道の降雨も様相を変え大量の雨が降るようになりました。「令和元年東日本台風」台風19号では、中央大学の

山田正教授が「流域型洪水」という概念を示されました。河川流域の広い地域で雨が降り、それらが支流から本流に集まり、時間を経て、下流域で洪水を引き起こしています。大雨特別警報が解除されたあとに河川の氾濫情報が出されたところがありました。

流域型洪水は、1カ所ではそれほど多くの雨が降らなくても、流域全体で相当量の雨が降り、それが大きな災害をもたらします。自分の住んでいる地域の雨量や水位だけを見ていても、全体で何が起きているかはわかりません。全体の状況を読み解かないと、どういう被害が起こるか予測しにくくなっています。

地方自治体が発信する情報も完全ではありません。各地の市町村は合併によってカバーすべき地域が広がっているのに、防災担当者は増えず、対応しきれなくなっているところもあります。**日本の防災は新たなフェーズに入りつつあると考えないといけません。** 中略

伊勢湾台風のように甚大な被害が出た時代もあったとはいえ、これまで日本の防災対策は比較的穏やかな気候を前提としていた。それが通じなくなっています。雨の降り方でも、かつての経験則が利かないのです。これからもハードによる防災対策は必要でしょうが、ハードの整備でリスクがゼロになるという時代ではなくなりつつあります。行政がすべてのリスクから住民を守ることを期待され、それをほぼ実行できた“幸せ”な時代は終わってしまったといえてよいでしょう。

行政はこれまでゼロリスクを実現するためにまい進し続けてきました。また、「リスクをゼロにはできない」とは口に出せませんでした。一方、住民は、行政が危ないところを教えてくれて、危ないときは指示してくれて、最終的には命を守ってくれると信じてきました。その結果、住民は受け身で防災を考えるようになってきました。行政が「主体」で住民は「客体」という関係ができあがってしまいました。そして何か予想外の被害が出ると、行政に落ち度があったと責めがちです。あまり使いたくない言葉ですが「災害過保護」という状態にあったといえてよいでしょう。それで済む時代ならそれでもよかったです。しかし“荒ぶる”災害が現実のものとなっている今、そうした関係を今後も続けられる保証はありません。行政側の「公助」のほかに地域内で助け合う「共助」、そして自ら主体性をもった行動で身を守る「自助」とを組み合わせて行政と住民が“共闘”しないと、これからの防災は成立しません。行政、住民ともにどう行動したらよいかを考える必要があります。終わり

皆様も『自分の備え』見直してみませんか？